

芸術学科生の声

芸術学科合格体験記

平成27年度入学 山本 萌

キリスト教の美術を勉強したいと唐突に思い立ったのは、高校三年生直前の春休みでした。小さい頃から展覧会などで美術は身近でしたが、学問として意識したことはありませんでした。文学や歴史、西洋の文化、宗教学など、大学で勉強したいと思う分野に悩まされていたある日、美術の視点から切り込めば全部勉強できるのでは、と思い至りました。

目標が決まりやる気と勢いだけで迎えた入試、なんとキリスト教美術の作品が小論文で出題されました。ところが、あまりに好きな分野だったために、極度の緊張と相まって冷静さを失い、視点が散漫な論述になってしまいました。結果は不合格。もちろん自分の実力不足が原因ですが、得意なはずの内容で力を発揮できなかったことが悔しくて、リベンジを期し浪人を決意しました。小論文はとにかく、与えられた作品やテーマに対して一貫した主張を持つことが大事です。色んな切り口が見えてもどれかに絞る、一つの観点で書ききる。当たり前のことですが一度体験した失敗を糧に、対策を通して常に意識続けました。

入学してから出会った芸術学科の同級生は、各々が独自の美術との関わり方を持ち、関心のある分野もバラバラで、毎日とても勉強させてもらっています。実技授業では銅版画の体験や油絵の模写など、作品を制作する立場の視点を意識する機会を与えていただきました。芸大ならではの時間で、講義で学べる知識とはひと味違った刺激を吸収できます。藝祭や、他大学と合同で行われる五芸祭といったイベントに関わることで色んな学科の人とも交流できました。少しでも美術が好きな人、やりたいことが見えている人、探したい人にとっては充実した時間を過ごせる学科だと思います。



研修旅行（1年次）



基礎造形実技 / 日本画（2年次）



藝祭 神輿パレード（1年次）

芸術学科生的一天

平成25年度入学 朝倉 憩

1、2年次は週に3回の実技授業があり、午前中は制作に没頭します。現在は日本画に取り組んでいて、薔薇の花を題材に各々自由に構成し表現する、という課題が与えられています。実技が必修授業としてあることは、私がこの大学を選んだ理由でもありました。2年間で版画、油画、写真、日本画、彫刻など様々な媒体を扱うことになりますが、一度、自分の手で一から作品の制作過程を辿ってみると、その後の鑑賞は格段に濃密なものになります。最近私は、以前からどうしてもやってみたかった金箔貼りに精を出し、悪戦苦闘しています。

昼休みを日本画アトリエで過ごす、午後からは講義室での授業に出ます。卒業論文のテーマを模索し始めている2年生にとって、特殊講義の授業選択は悩むどころです。今日の3限は日本美術史の特講で、藝大の設立にまつわる近代日本美術史についての講義を受けました。今は、自分の知らないことばかりの世界にも積極的に身を投じ、そこから徐々に専攻領域を絞っていかれたらと考えています。その後に受ける授業は写真映像論と西洋美術史です。このように様々な領域に触れていくことによって度々起こり得る一種の化学反応のようなものの発見が、毎日の生活を充実させてくれるように思います。そのため、摂取するジャンルの範囲はできるだけ広くするよう心掛けています。

放課後は藝祭委員の幹部会議に出席します。夏前のこの時期には、どの課の委員も来たる9月の藝祭に向けて準備に奔走しています。週に一度のこの会議は、重要な報告・話し合いをする場であると同時に、校舎の違う他科の友人に会うことのできる貴重な時間でもあるので、みんな集まるのをとても楽しみにしているようです。

芸術学科を卒業して

平成27年度卒業 東京都庁 難波 岬

芸術学科で学ぶということ。それは、私にとって人生の分岐点となりました。自らの社会貢献のあり方を探るきっかけとなりました。他大学からの再受験者である私を芸術学科は温かく迎え入れてくれました。多種多様な講義の数々、日本画等の実技実習、古美術研究旅行の貴重な学びの環境、学園祭や文化事業におけるかけがえのない経験。芸術学科、そして東京藝術大学における4年間は刺激と感動、発見に溢れていました。何よりも芸術に対する鋭い感性の持ち主達に囲まれて過ごすことができたことは、何ものにも代え難いことです。

現在、私は東京都水道局に勤めています。東京都職員として働くことを志望した発端は、その文化施策に可能性を見出したことでした。文化事業等への参加や学芸員資格を取得する過程において、行政という立場から文化振興を支援するという方向性を知り、これこそが自身が目指したい社会貢献の形だと強く思い至りました。その後、大学3年時の都庁インターシップへの参加、約1年間の公務員試験対策の勉強を経て、東京都職員として働くご縁を頂くこととなりました。

水道局での業務内容は、一見すると芸術学科で学んだこととは異なるかもしれませんが、しかし、美術の歴史を学び、芸術を通して人がつながる様子を目の当たりにし、何事も「人」あってなのだとすることを学んだ経験は、水という人々にとってかけがえのないものを通して、お客さまと水道局がつながっている点と通ずるものがあると感じています。芸術学科生、東京藝術大生であるという誇りは、新たな一歩に繋がります。芸術学科に入学される皆様が、自らの社会におけるあり方を見つけ、強くしなやかに輝かれることを願ってやみません。

東京藝術大学

美術学部

芸術学科

入試説明会のしおり

AESTHETICS

JAPANESE AND ASIAN ART HISTORY

WESTERN ART HISTORY

HISTORY OF CRAFTS

入試について

概要 — 平成30年度から日程が変わります。
科目変更はありません。

大学入試センター試験（3教科・3科目、計600点）、1日目の個別学力検査（外国語・地理歴史、計400点）、2日目の実技検査等（小論文または鉛筆素描（石膏像）、200点）の合計点（1200点）に、出願書類（調査書等）の審査を加えて総合的に可否を判定します。

合格者は、2日目の選択科目（小論文または鉛筆素描）ごとに判定し、合格者数は原則として、小論文と鉛筆素描の受験者数に応じて比例配分します。

なお、詳細については本学入試情報サイトで、本年7月頃公開予定の『入学者選抜要項』、および同11月頃公開予定の『東京藝術大学学生募集要項（美術学部・一般入試）』をご参照ください。

大学入試センター試験
3教科・3科目
計600点

合計1200点 総合的に判定

1日目
個別学力検査
外国語・地理歴史
計400点

2日目
実技検査等
小論文または鉛筆素描
200点

出願書類
(調査書等)の
審査

1日目（2月27日）：外国語・地理歴史

1日目の個別学力検査では、入学後の授業において必要となる**外国語**と**地理歴史**の基礎学力をみます。

外国語は、入学願書提出時に英語・ドイツ語・フランス語の3科目から1科目を選択します。原典講読などの授業に対応できる語学能力をみることに主眼を置きます。過去5年間は、各科目とも芸術に関連する150語前後の原文を提示し、日本語訳を作成する問題を2題ずつ出題しています。

地理歴史は、試験開始後に世界史・日本史の2科目から1科目を選択します。美術史系の授業の前提となる基礎知識を問うことに主眼を置きます。個々の歴史事項に関する正確な理解とともに、複数の歴史事象を結びつけて合理的な論述を展開する能力や、高い視点から歴史の流れを大きくとらえる能力をあわせて問います。両科目とも過去5年間は、記述式問題1題（解答用紙はA4罫紙1枚）と語句説明3問（4問から3問を選択、各問とも解答用紙はA4罫紙1枚）を組み合わせる形式で出題しています。

2日目（2月28日）：小論文または鉛筆素描

2日目の実技検査等では、芸術学を学んでいく上で要求されるより専門的な能力をみます。受験科目は、入学願書提出時に**小論文・鉛筆素描**（石膏像）の2科目から1科目を選択します。

小論文は、問題の意図を正確に読み取る理解力や、論旨を組み立てる論理性、説得的な文章を書くための日本語の表現能力をみることに主眼を置きます。このような能力は、入学後にレポートや卒業論文を書く上でも重要になります。過去5年間は、美術作品の図版を見て記述を行うという問題や、芸術作品のあり方について原理的に問う問題（解答用紙はB4罫紙1枚）が出されています。最近の出題例は、次のとおりです（問題文のうち、注意事項などは省略しています）。

平成25年度 悲しみや恐怖など、否定的な感情を与える芸術作品が好まれることがあるが、それはなぜか。具体例を挙げて論じなさい。ジャンルは問わない。

平成26年度 別紙の図版AとBは、1230年頃、ストラスブール大聖堂に設置するため、対作品として制作された石造彫刻です。両者を比較しつつ、その造形的特質について論じなさい。なお、Bの彫像が手にしている折れた槍の柄の、下半分は後世に失われています。※図版は《シナゴーク》、《エクレシア》

平成27年度 スケッチによって気づいたことを中心として、本作について自由に論じなさい。※図版は尾形光琳《八橋蒔絵螺鈿観箱》

平成28年度 別紙の図版A、Bはともにキリスト教の「受胎告知」（処女マリアが救世主キリストの懐胎を告げられる場面）を描いています。両作品の表現を比較して、見る者に伝えられる意味や感情の相違について論じなさい。※図版はフラ・アンジェリコ《受胎告知》、ボッティチェリ《受胎告知》

平成29年度 ポピュラー文化と芸術の関係について論じなさい。

平成30年度 美術作品における「金（きん）」のもつ意味や機能について論じなさい。

鉛筆素描 合格者の作品



手首2個



グデア

入学後のまなびと進路

入学後のまなびについて — 美学研究室、日本・東洋美術史研究室、西洋美術史研究室、工芸史研究室 —

芸術学科のカリキュラムの特色は、なんといっても美術の実技を藝大各科の教員から学べることにあります。

学部の1・2年次には、版画、油画、写真、日本画、彫刻などをアトリエで学ぶことになります。実際に手を動かすことで、美術作品を見つめる眼差しが次第に変化していくことに気がつくことでしょう。本や図版から得られる情報以上の、対象を瞬時に把握する能力が養われることは間違いありません。

現代の作品と向き合う時には、自分の中の「制作者」が自ずと立ち現れてくるのを実感できるはずです。実技は午前中に週3回、午後は講義や演習で専門的な知識を学ぶことになります。ほとんどの授業が大学院生も含めた全学年の混合授業であるのも藝大の特徴です。演習（いわゆるゼミ）では、課題を与えられて発表する形式の授業が多いのですが、上級生や大学院生の発表を参考に配布資料やプレゼンのテクニックなどを実践的に学ぶことができます。しかも、1年次から演習に参加することも可能で、芸術学科では入学すると同時に専門的な授業に触れることができるのです。最初は難しいと感じるかもしれませんが、先輩や教育研究助手たちのサポートも受けながら、次第に研究を実践できるようになっていきます。

美術史や美学を学ぶには外国語も重要です。低学年のうちに集中して語学を習得してください。英語の他に、フランス語・ドイツ語・イタリア語を上級まで学ぶことができます。また、日本・東洋古典語を学ぶ授業も用意されています。

卒業生の進路

芸術学科卒業生の進路は多岐にわたり、様々な分野で活躍しています。なかでも、美術館や博物館の学芸員として働く卒業生は多く、その活躍ぶりと評判はよく知られているところです。学芸員となった卒業生は、165名を数え（2014年現在）、卒業生の総数に比して最も多くの学芸員を生み出していることで有名です。これが、「**学芸員なら芸術学科**」といわれる理由です。

学芸員への道

芸術学科への入学を希望する受験生の皆さんにも、将来、学芸員になりたいと思っている方が多いのではないのでしょうか。芸術学科では、学芸員になるための基礎をしっかりと学ぶことができます。学芸員は専門職であるため、深い知識と資格が必要です。学芸員の採用に際しては、多くの場合、大学院を修了していることが条件となっています。そのため、学部での勉学を終えた後、さらに大学院の美術研究科に進学して専門性を深めることが一番の近道でしょう。芸術学科を卒業する20名のうち、毎年、半数近くが大学院に進学しています。

その他の道

ギャラリーや出版社、新聞記者、美術雑誌のジャーナリストなど、美術に関係する仕事に多くの卒業生が就いています。新聞社やテレビ局などの文化事業部と呼ばれる部署は、展覧会の企画や運営を行うことから人気があります。先輩のなかには、経験を積んで、世界的に有名なギャラリストとして新人作家を発掘、あるいはビエンナーレのような国際美術展を組織するキュレーターもいます。

国際的に活躍するアーティストも生まれています。学問だけではなく、実技も学ぶことができる芸術学科ならではのでしょう。藝大ではアーティストの卵に囲まれて学生時代を過ごすことができるので、学問だけでなく同世代からの芸術的な刺激にもたいへん恵まれています。

学問を続けたい人は、大学院で修士論文や博士論文の執筆を目指すものも多いでしょう。研究者として活躍する卒業生も多数います。本学のみならず日本中の大学で芸術学科を卒業した教員が教鞭を執っています。

2年次には、古美術研究旅行（通称「古美研」）が待っています。「古美研」は、東京美術学校の時代、明治38年頃にはじまった伝統ある見学授業で、美術学部全学科の必修科目です。2週間合宿して近畿地方の古社寺や美術館を教員とともに巡ります。非公開の国宝や重要文化財を見学できるのも、長い伝統と先輩たちが築いてきた信頼の証だと言えるでしょう。

4年次には**卒業論文**を執筆します。3年次に執筆題目と指導教員を決め、1年以上かけてしっかりと取り組むのが芸術学科の伝統です。卒業論文に全力で取り組むことが、芸術学科の卒業生たちが社会で活躍している秘訣なのかもしれません。

芸術学科では9人の専任教員が皆さんの入学を待っています。美学と美術史の分野に関してこれだけの数の教員を揃えている大学は他に見られません。教員1人あたりの学生数8.9人（学部定員／教員数）という少人数教育が実現されていることから、入学後の学生の満足度が高いのも当然かもしれません。



演習授業風景



研究風景



古美術研究旅行(2年次)

《主な就職先一覧》

【学部卒業者】

NHK
岡崎市役所
国立天文台
コム・デ・ギャルソン
小山登美夫ギャラリー
サンゲツ
小学館
JR東日本ステーションリテイリング
電通
東京国際フォーラム
東京都庁
東宝
特許庁
凸版印刷
ヒロミヨシイ六本木
フィルムアート社
ベネッセホールディングス
ポプラ社
横浜市芸術文化振興財団
など

【大学院修了者】

群馬県立館林美術館
国立新美術館
国立西洋美術館
サントリー美術館
静岡県立美術館
島根県立美術館
東京国立博物館
東京都美術館
名古屋ボストン美術館
奈良国立博物館
ポーラ美術館
横浜美術館
クリスティーズジャパン
朝日新聞社
新潮社
美術出版社
学習院女子大学
東京大学
立教大学
など